

エコバックの利用を中心とした買い物における “エコ”の実態調査

史 中超 研究室
1231136 寺下 悟司

1. 研究背景・目的

近年、日本では、環境問題の解決に関心を持ってもらうために「エコ」という言葉がよく用いられるようになった。それに伴い、エコ志向が高まり、「エコ活動」と呼ばれるものがいくつも行われている。マイ箸運動やエコバッグによるレジ袋削減運動などがその例である。これらの活動は、消費する木材や石油などを減らし、資源消費の削減、無駄なゴミを減らす効果をもたらしている。

多くの「エコ活動」がある中、最近「レジ袋削減運動」がもっとも注目されている。買い物時にビニール袋やレジ袋をもらわないようにする運動である。これにより、無駄なレジ袋の消費を抑えることが可能になり、買い物客の環境意識が少しずつ高まることにつながってくる。「レジ袋削減運動」が大きく広まったキッカケは、大手スーパーのイオンが全店舗でレジ袋の有料化を始めたことであった。2013年11月から実施し始めた全店レジ袋有料化であるが、それ以前に有料化を実施したスーパーもいくつか存在した。しかし、当初メディアを介した報道はなかったため、あまり注目されなかった。「レジ袋削減運動」の広がりにより、買い物時に、レジ袋の代わりになるものとして、「エコバック」というものが、広く利用されるようになった。オシャレなエコバックや、ただの買物袋にはない機能を付けたエコバックなど、バック業界もにぎわった。

図1は年度別のレジ袋辞退率を表したグラフで

ある。年々辞退率は上がっているが、それでも50%程度にとどまっているのが現状である。今後、より多くの資源削減を目指すためには、レジ袋辞退率を上げる必要がある。

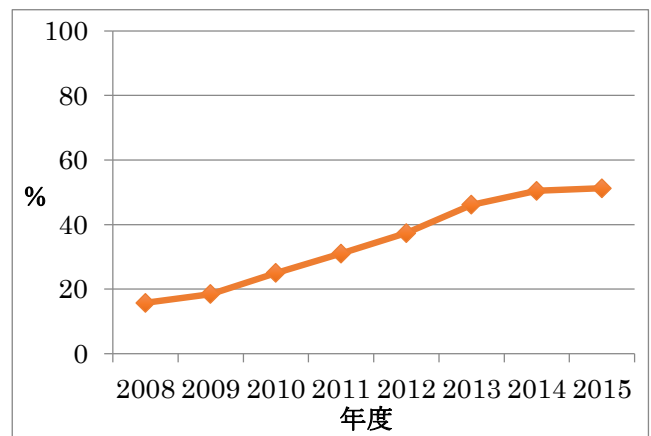


図1 年度別のレジ袋辞退率[1]

本研究では、レジ袋の辞退率があまり上がっていない現状の原因を調べ、現在エコバックがどの程度使われているのか、また、店舗ごとのサービスの差でどれほど辞退率に差が出るのかを調査研究し、今後エコバックをより多くの人に浸かってもらうにはどうすればいいのかを考察する。

2. 実地調査とインタビュー

エコバックを利用している人が実際どれほどいるのかを調査するために、レジ袋に対するサービスの方法が異なっている大手スーパーである、ダイエー、イオン、オーケーストア、イトーヨーカドーを調査した。調査方法は、9月28日から10月9日までの、平日の夕方17時過ぎから、エコバックの所持者とそうでない人の人数を数え

た。また、その中から各店舗約 50 人に対して、インタビューを行った。エコバックを持っているお客さんをカウントし、レジ袋の有無、店の形態に分けて、各 400 人に調査を行った。

図 2 は、調査した各店舗のエコバック所持者数・非所持者を示したグラフである（青色は所持者数、橙色は非所持者数を示す）

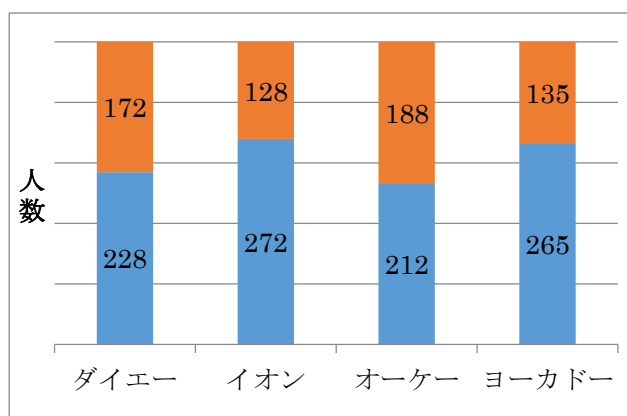


図 2 各店舗のエコバック所持者

今回の現地調査およびインタビューの結果では、以下の 4 つのことが分かった。

- ① 「環境を考えると」というより、金銭面を考慮している人が多い点である。買い物をしている人の大半は主婦を占めているため、日頃のお金の管理等を考えると、レジ袋に毎回お金は払えないということが最優先されている。
- ② 「得する思考<損をしたくない思考」を持っている人が多い。調査に行った店の中で、イトーヨーカドーは「レジ袋辞退で 2 円引き」という制度を 2 年前までとっていた。廃止になった理由は、辞退率があまり上がらなかったからである。主婦の方々は「みんながレジ袋を使っていないだけで、私は〇円多く払っている」という考え方をするらしい。実際にイトーヨーカドーで聞いてみると、インタビューした人の半数以上がそのように回答した。
- ③ エコバックを所持していない人の多くは「毎回準備が面倒そう」「忘れてしまいそう」という人が多く存在したが、エコバックの形に

よっては、バックの片隅に入れておけるものが多く、1 つ持っているだけで、買い物に行くスーパーを選ばなくても済むという。買い物時にはかなり役に立つという声が多かった。

- ④ 前述③ではエコバックを利用している人からの目線だったが、利用しない人の理由を聞くと「金銭面では確かに損をしているが、一度の買物量が限られる上に、レジ袋は家で別に使っている」という意見が多く存在した。また、現在は「〇曜日は～が安い」といった制度を取っているスーパーが多い。つまり、毎日買い物に来る人に焦点を当てているのだが、少し過剰ではないかと思う。確かにリピーターの増加や、買うつもりのなかった品を買い足すと考えれば妥当だが、週末等にまとめて買い物をする人の目線にも立つべきではないだろうか。

3. まとめ

本研究では、日本における代表的なスーパー4店舗を対象に、エコバックの利用の実態調査を行った。その結果、現在の状況では環境を意識してエコバックを使用している人は意外に限られていることが分かった。エコバックが流行し始めたころは、「環境に良く、お得だから」という意識だったものが、現在は「エコバックを持っていないと損するし、一応環境にも貢献できる」といった意識に変わりつつあることが感じ取れた。確かにレジ袋 1 枚で一気に環境が悪くなるほど、大きな害を及ぼすものでもないのは事実だが、レジ袋を生産するために、海外から様々な物質の輸入を行っているなどと、無駄があるのも事実である[2]。レジ袋削減運動のような小さなことであっても、毎日努力しつづけることが大事だろうと思われる。

4. 参考文献

- [1] <https://www.jcsa.gr.jp/topics/environment/approach.html>
- [2] <http://www2u.biglobe.ne.jp/GOMIKAN/sun3/sun45a.htm>